

第2領域

「いかしつつ守る環境活動者のグローバルな架け橋」

(持続的な人間活動と環境保全活動にかかる人々の共通の理解と連帯の形成)

この領域は人々の生活と環境保全活動のバランスを考えることを目的としています。

ごみの島から「人のつながり」の島へ再生

<研究・活動名>瀬戸内海・豊島をモデルとした自然環境・地域再生研究プロジェクト

<代表者／団体>早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科助教 切川卓也
豊島学（楽）会

戦後最大級の不法投棄事件が発生した瀬戸内海の“豊島(てしま)”をモデルとして、自然環境と地域再生に焦点を当てた研究を展開しています。

島が本来の姿で活力に満ちた姿を取り戻し、かつ自然の回復が併せて行われることを目的として、主に地域産品流通システム、市民活動型の簡易環境計測システムの開発、豊島共創グリーンマップシステムの構築を目指しています。

本プロジェクトは、今年度の「市民が創る環境のまち“元気大賞 2010”」特別賞に選出されるなど、期待が高まっています。

(2009年1月より半年に1回の審査を受けて継続中)

大学と地域と農のネットワーク

<研究・活動名>学生と地域市民で取り組む地域バイオマス活用による循環型社会の研究・実践

<代表者／団体>早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授 紙屋雄史
NPO 法人早稲田環境市民ネットワーク

地域の里山や農業の課題に大学が取り組むことで、新しい地域との関係創造につながる社会モデルを構築するために、埼玉県本庄市の大学キャンパス周辺に実習農場を整備し、地域のバイオマスを活かした農業を実践するとともに、実験的なエネルギー作物の栽培や、地域の希少種の保全などに活動に学生の参加、環境教育の機会を提供しています。今年度は、特に地域における生物多様性に関する市民モニタリング手法の開発なども進めています。

(2009年1月より半年に1回の審査を受けて継続中)





森を考えるプロジェクト

「荒廃地における森の再生」(p 5)

「持続可能なジャングルラバー」(p 5)

「森林政策を考える」(p 7)

※ プロジェクト名は略称です。
詳しくは各ページをご覧ください。

<新規プロジェクト>

やんばるの森 (p 14)

天然ゴムの持続的安定生産 (p 14)

ごみと海（湖）を考えるプロジェクト

「地域の人々と学生の交流からごみ問題を考える」(p 19)

「ゴミの島から『人のつながり』の島へ再生」(p 9)

<新規プロジェクト>

「トキの生育環境保全」(p 14)



W-BRIDGE
プロジェクトマップ



世界への情報発信を考えるプロジェクト

<新規プロジェクト>

- 「環境日本学の世界への発信」(p 19)
- 「文明と環境に関する知の対話」(p 19)
- 「熟議とファシリテーション」(p 14)



都市環境／環境経営を考えるプロジェクト

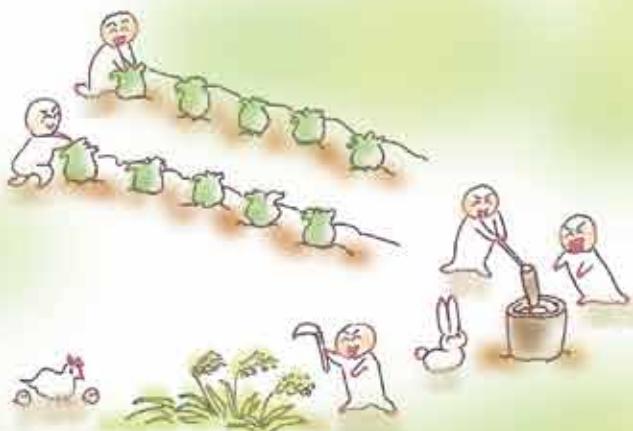
- 「地域住民と共に創るサステナブル都市新宿」(p 15)
- 「学生が未来のエコビジネスを開く」(p 15)
- 「排出量取引研究」(p 16)

<新規プロジェクト>

- 「企業 CSR と地域交流」(p 18)
- 「女性から見た環境・社会貢献活動」(p 18)

地域連携／農を考えるプロジェクト

- 「大学と地域と農のネットワーク」(p 9)
- 「じょんのびプロジェクト」(p 17)
- 「いばらきエコネットワーク」(p 13)
- 「農と食と緑」(p 13)



(第2領域 つづき)

地域で取り組むいばらきエコ・ネットワーク

<研究・活動名>地域連携で生み出しいばらきエコ・ネットワーク STEP2

(ネットワークからコミュニティへの展開)

<代表者／団体>茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）准教授 田村 誠

城里町商工会、筑西市商工会エコの木プロジェクト部会

城里町商工会と筑西市商工会が地域取り組みの実施主体となり、茨城大学はそれらを人と技術でつなぎ、サステイナブルな知識を財産として共有し伝承することを目的としています。

現在、エコ・ショップやエコの木プロジェクトなど各種のユニークな事業が展開されており、「生活者」が生き生きと展開させる「コミュニティ」とその有効性を科学的な視点での検証が進められています。

(2009年7月より半年に1回の審査を受けて継続中)

農林業体験を通じて若者への環境問題を提起する

<研究・活動名>農林業体験を通じた若者への環境問題提起

～食行動変容からの検証～

<代表者／団体>早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター助教 秋吉 恵

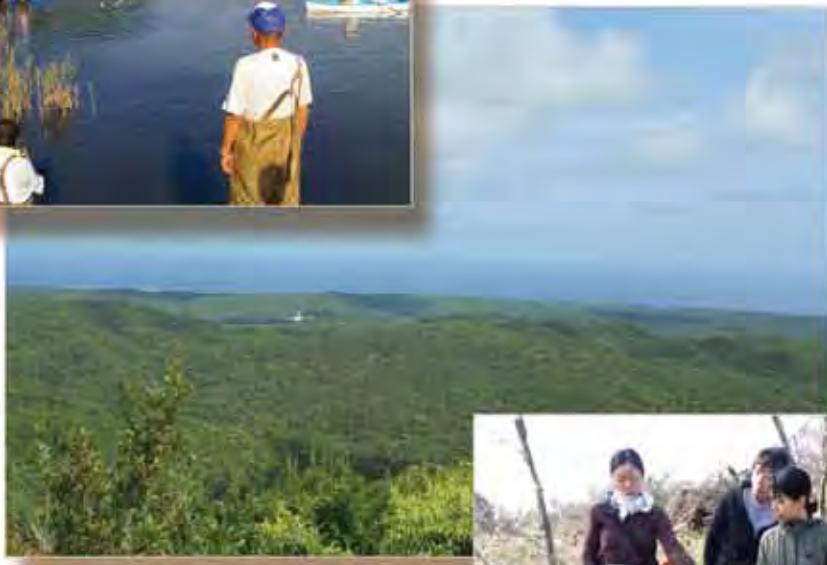
WAVOC「農と食と緑の学校 in おけら牧場・ラーバンの森」

今後の社会を担う学生には、実際に農山村に行き、日本の農業や食、雑木林の役割や環境問題を現場から考えるとともに、「都市と農村」「中央と地方」の関係性を読み解くことのできる視野が必要となります。学生を主体として、農業の現場での作業を通じて食の生産過程に触れ、日々の自分たちの消費行動を見つめ直し、また、里山の手入れや松林の手入れを通じて、雑木林の役割や環境問題を実際の森づくりの現場から考える活動を実施しています。

今年度からは、食行動変容からの検証からといった側面をくわえて、研究・活動の充実を図っています。

(2009年7月より半年に1回の審査を受けて継続中)

右ページ写真 上：環境整備作業（島谷プロジェクト）
中：やんばる国頭の森と海（桑子プロジェクト）
下：草刈機の指導（秋吉プロジェクト）



★第2領域の新規採択案件

以下の4つの研究・活動が2010年7月から新たにスタートしています。(生物多様性を重視する地域活動)

○新潟県佐渡市トキ舞う加茂湖の水辺再生プロジェクト

(九州大学大学院工学研究院環境都市部門教授 島谷幸宏／佐渡島加茂湖水系再生研究所)

○やんばる国頭の森の持続可能な森林資源管理に関する研究

(東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授 桑子敏雄／NPO法人 国頭ツーリズム協会)

○中国における天然ゴムの持続的安定生産に関する研究・活動 一生物多様性および環境経営・政策的視点から (富山県立大学工学部・教養教育教授 佐藤幸生／雲南省昆明植物園)

○環境問題解決のための「場」作り実践の分析 -「熟議」と「ファシリテーション」(早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授 友成真一／re:connect -人と人、人と自然の“つながり”を育む存在となる- (早稲田大学OB・学生団体)